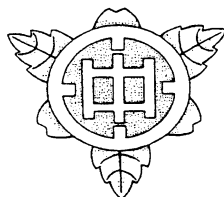


# 学校だより



9月号

平成29年8月29日

## さいたま市立田島中学校

〒338-0837

さいたま市桜区田島 10-13-1 TEL 048(864)3451

<http://tajima-j.saitama-city.ed.jp/>

### 【学校教育目標】

#### きれいな学校・調和のとれた人づくり

- 自ら学ぶ生徒（知性を磨く）
- 心豊かな生徒（感性を研く）
- 活動力のある生徒（体を鍛える）

敵も味方もなく

校長 富田 英雄

この夏は、雨の日が続いたり、突然、雷雨に見舞われたりすることもあり、例年と比べて屋外での活動、体験の機会が少なかったのではないのでしょうか。湿気も多く、体調管理が大変だったと思います。それでも、田島中の生徒は元気一杯、この夏も活躍しました。全国中学校体育大会では、柔道男子個人戦で室谷歩武君（3年）が3位、女子個人戦で新タ希海さん（3年）が5位に入賞し、水泳競技では、団体種目（女子400mリレー）として初めて出場しました。また、関東大会は、柔道女子団体が3位に入り、男女個人戦に9名出場、ハンドボール男子は3年連続出場を果たし、水泳女子400mメドレーリレーは初出場を果たしました。文化部も、吹奏楽部が南部地区大会で銀賞、演劇部が2年連続中央大会出場などすばらしい成績を残してくれました。その勢いは2年生中心の夏季大会でも続き、野球が優勝、水泳競技が総合優勝するなど、今から新人戦が楽しみです。

さて、夏の全国高等学校野球選手権大会は、花咲徳栄高校が埼玉県勢として、夏、初めて優勝しました。昭和26年に県立熊谷高校が初めて決勝に進んで以来、やっと悲願が達成され、県民として嬉しい限りです。その花咲徳栄高校に惜しくも県予選決勝で敗れた浦和学院高校に関する埼玉新聞の記事（7月25日）が目にとまりました。その記事によると、県予選準決勝で、浦和学院の選手の打球が相手投手を直撃し、相手投手が倒れ込んでしまいました。するとすぐに、1、3塁コーチをしていた浦和学院の主将と選手が相手投手にかけより、冷却スプレーで手当をしたとのことでした。「相手に気を配る、野球人として当たり前」とコメントが書かれていましたが、咄嗟にできることではありません。これまでの保護者や教員、部活動顧問の教え、経験の積み重ねが行動につながったのだと思います。手当をした主将は、本校の卒業生であり、野球部では主将を務めていました。本校職員は私を含め、この記事に大変喜んでいるところです。

この記事を見て、歴史上の出来事を思い出しました。それは、赤十字の創立のきっかけになったことです。今から160年近く前、イタリアのソルフェリーノという地で壮絶な戦争がありました。そこにスイス人の実業家が訪れ、悲惨な有様を目の当たりにし、敵も味方もなく負傷者の救護にあたったのです。その実業家こそ、赤十字の創始者と呼ばれたアンリー・デュナンです。デュナンは帰国後、「ソルフェリーノの思い出」という本を出版し、戦場の負傷者、病人は兵士ではなく、人間であり、差別なく救護しなければならないと訴えました。このことがきっかけで赤十字が創立されたのです。敵味方隔てなく、平等に助けるというデュナンの考えは、現在の人権尊重教育にもつながります。誰に対しても分け隔てなく、思いやりの心を持ち、行動する態度を身に付けることは、生きていく上でとても大切なことです。本校の卒業生のとった行動を、誇らしく思うとともに、生徒には思いやりの心、行動力を身に付けてほしいと思っています。

いよいよ2学期が始まります。保護者、地域の皆様におかれましては、引き続き、本校の教育活動に御支援、御協力のほど、よろしく願いいたします。